

## 研修報告書No. 7

研修先 梶原町立国民健康保険梶原病院  
津野町国民健康保険杉の川診療所

平成25年7月22日から8月16日まで梶原町立国民健康保険梶原病院で地域研修をさせていただきました。梶原病院の先生方、コメディカルの方、事務の方など多くの方にお世話になり、とても充実した研修をさせていただいたことに感謝いたします。

研修内容としては病棟の担当患者さんの日々の診察、梶原病院を始め他の診療所での外来診察や往診、障害者支援施設と特別養護老人ホームの定期診察、梶原病院での諸検査などでした。また、重症度に関係なく運ばれる救急車に対応し場合によってはドクターヘリの搬送の場まで同行させていただきました。急性期の対応が必要であったり、手術が必要な患者さんは転院もやむを得ないことですが、その適応を判断して転院先の病院に紹介することは患者さんにとって重要なことであり、しかし時としてその判断は難しいもののかなと思いました。

この地域研修において特に印象に残っていることは3つあります。

1つ目は採血検査や画像撮影をさせていただいたことです。偶然、検査技師と放射線技師それぞれが不在の週があり、外来や病棟の検査をさせていただきました。梶原病院の先生方は夜間や休日は自分で検査をしていることに驚きましたが、今まではカルテ上で検査結果が出るのを待つだけであったため、とても貴重な経験になりました。特に画像を撮る際は、オーダーした先生が何を見たいのか、自分が撮影した写真でその判断ができるのか、など画像に対して今までとは違った視点を持つことができました。

2つ目は医療事情についてです。高知県は森林が全土の83%と多いことから人口密度が低く、過疎化率が全国の1.9倍となっています。また、高齢化率が全国で上位で少子高齢化は全国より約10年先行しており、これからも上昇することが考えられています。梶原病院では10~20km離れた診療所で週2日先生方が外来をしていますが、以前と比べると受診者は減っているという話も耳にしました。高齢化が進み人口の減少により必然的なことであり、梶原町に限らず他の地域でも同様かもしれません。患者さんを主体に考えると近くで受診できることは大きなメリットですが、医師不足や医師の偏在化があり今後高齢化が進むことと医療全体の効率を考えると一概にメリットとは言えない部分を持ち合わせているのかなと思いました。

3つ目は、地域医療を最も実感できたことですが、患者さんのことを医療スタッフが本当によく知っていることです。初日の病棟カンファレンスの時に、この患者さんは誰々の兄弟、独居で近所の誰々さんが世話をしてくれている、患者さん同士が親戚、この患者さんの住宅は山の奥の方にある、など社会背景や生活環境を良く理解していることがとても印象的でした。梶原病院は隣に保健福祉支援センターがあり、週一回のカンファレンスで

医師と保健師が情報を共有し問題点を上げ解決策を見出させることもその理由の一つのようでした。患者さんのプライバシーは少ないかもしれませんが、それだけよく知られているということは患者さんにとっては安心して暮らせる環境なのかなと思いました。栲原病院は私が研修している大学病院とは規模や役割が違うため一概には比較できず、大学病院で患者さんの背景を同じほどに情報収集することは難しいことだと思います。しかし、それだけ一人ひとりの患者さんのことを理解することはその後の治療方針を決めるにあたって重要な因子にもなり、どのような地域・病院であっても、可能な範囲で医学的な情報以外の部分を知ることは大切なことだと感じました。

季節的に夏祭りが多いこともあり、仕事以外の面でも地域とのふれあいを見させていただきました。院長先生からの、大切なのは患者さんと周りの医療スタッフという言葉をお忘れずに、この地域研修で学んだことを自分なりに生かしていきたいと思います。